

諏訪湖の学びと発信拠点

岡谷 環境研究センターあす開所

岡谷市の諏訪湖畔にある県男女共同

参画センター「あいとびあ」内に4月

1日、県諏訪湖環境研究センターが開

所する。諏訪湖を中心とした県内の湖

沼や河川の水環境・生態系保全を目的

に、県の複数の機関で行ってきた調査

研究機能を集約。学びと情報発信の拠

点としての役割を担い、湖の研究をす

る大学や住民グループとの連携も一層

強めていく。1日の業務開始後、9日

には阿部守一知事らが出席して開所式

を行う。

(松本佳林)



岡谷市の「あいとびあ」内に開所する県諏訪湖環境研究センター

県は当初2023年度の開所を目指していたが、2、3階部分の床の補強や建物の環境性能の向上が必要と判断。開所を延期して関連工事を進めてきた。屋上には約160枚の太陽光パネルを新設し、使用電力の一部を賄う。

環境研究センターは県環境部水大気環境課が所管し、約20人を配置。センター長には

1日付で国立環境研究所客員研究員の高村典子氏が就任

し、県諏訪地域振興局環境課長の田邊皇子氏が転任して所

長に就く。信州大学諏訪臨湖実験所（諏訪市）や公立諏訪

東京理科大学（茅野市）、市町村、住民グループとの連携を

強め、湖の総合計画「諏訪湖創生ビジョン」の実現に向け

た事業も推進していく。

把握する測定装置を新たに導入。底泥研究室では、諏訪湖の湖底部で夏場を中心に起きる

貧酸素対策について研究する。建物には4階建て（一部2階

建て）で、1階の男女共同参画センターとの共用部分を含め

た延べ床面積は約3300平方

メートル。1階エントランスホールとホワイエには、大量繁殖が課題となる水草ヒシや貧酸素の発生メカニズムに関する解説子どもたちが楽しみながら環境学習できる展示物を設け、水質保全・生態系などに関する啓発や学びの場とする。

た延べ床面積は約3300平方

メートル。1階エントランスホールとホワイエには、大量繁殖が課題となる水草ヒシや貧酸素の発生メカニズムに関する解説子どもたちが楽しみながら環境学習できる展示物を設け、水質保全・生態系などに関する啓発や学びの場とする。

た延べ床面積は約3300平方

メートル。1階エントランスホールとホワイエには、大量繁殖が課題となる水草ヒシや貧酸素の発生メカニズムに関する解説子どもたちが楽しみながら環境学習できる展示物を設け、水質保全・生態系などに関する啓発や学びの場とする。